

循環器内科 Cardiovascular Division



筑波大学医学医療系
循環器内科学
教授 青沼和隆

循環器内科へようこそ！

過去20年に於いて、学問的に最も進歩しそれに応じて治療法が飛躍的に進歩した分野の一つとして、循環器病学があります。循環器病学は治療の主体が外科から内科にシフトし、現在ではほとんどの疾患の治療が内科で行う領域になってきました。そのため習得すべき手技が膨大となり、多くの上級医をはじめとする循環器専門医でさえもその全てを理解し、習得する事は困難です。今から循環器病学を学ぶ諸君こそ、この様な高度に分化した多くの治療法の中から真に必要な治療を選択し、組み合わせることで、新たな時代に見合った能力を発揮する真の力を備えているのです。現在まで開発された治療手技とこれからも進化し続けるあらゆる先端技術を理解し、習得し、駆使する事でより良い治療に結びつけ、病める患者を救う事が出来るのです。更に、その様な治療の組み合わせを学問として体系付けて行くという全く新しい研究分野が諸君には広がっています。筑波大学循環器内科は、循環器病のあらゆる分野における限りのない発展を常に望む若き医師たちの集う場所となりたいと思っています。その上で、わが国における臨床循環器部門をリードしたいという気概にあふれる若き医師を育成して行きたいと思っています。循環器内科の全ての分野を皆と共に楽しく習得し、自分の血肉としたいと思う気概あふれる先生方、是非とも集まってください。

後期研修制度の仕組み

筑波大学附属病院では、レジデント制度を採用しており、後期研修期間はシニア課程2年、チーフ課程2年の合計4年です。研修医は、筑波大学附属病院の内科系レジデントとして採用され、シニア課程1年次(卒後3年目)より循環器内科をサブスペシャリティとして研修します。筑波大学循環器内科では後期研修の4年間で循環器の基本的な考え方、検査手技、治療技術をマスターして、**レジデント修了時には循環器専門医の取得を目指します。**

また、トータルで9~10年間で一人前の循環器内科医を育てる為に、ポストレジデント制度(クリニカルフェロー)を導入して、卒後6年目(後期研修4年目)修了後に、更に冠動脈インターベンション、カテーテルアブレーション、デバイス治療、大動脈弁・僧帽弁の経皮的治療法の習得を指導し、より専門的な領域を究めて一つの分野の真の専門医となる道筋や、あるいはジェネラルな循環器内科医として成長する道筋を示し、各自のあらゆる希望を叶える環境を提供します。

アカデミックレジデント制度

筑波大学循環器内科では、通常の4年制大学院進学コースの他、大学や関連病院でレジデントの課程を進みながら、同時に昼夜開講制大学院に平行して進学して博士号の取得が可能な**アカデミックレジデント制度**(社会人大学院制度)があります。4年間の大学院の期間をすべて病院で勤務しながら臨床研究を行い博士号を取得する事も可能ですし、その間1~2年間レジデントを中断してリサーチイヤーを設け、基礎研究や臨床研究に没頭することも可能です。もちろん病院で勤務している間は給与が支払われますので、処遇の面でも安心して、研修、研究に従事することができます。

取得可能な専門医・認定医・資格など

必須である内科認定医・循環器専門医に加えて、それぞれの専門に応じて下記の資格を取得する事が可能です。
内科専門医・指導医、脈管専門医、高血圧専門医、不整脈専門医、心血管インターベンション学会認定医・専門医、超音波専門医、「植え込み型除細動器/ペースングによる心不全治療」研修証、ACLSインストラクター等

後期研修を修了した後に大学院への進学やクリニカルフェローとしてキャリアアップを行う例

3年目	4年目	5年目	6年目	7年目以降
大学病院・関連病院				大学院進学、留学、クリニカルフェロー・スタッフ
シニアレジデント		チーフレジデント		

アカデミックレジデント制度を利用する例

3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目以降
大学病院・関連病院				研究専念(リサーチイヤー)	留学、クリニカルフェロー、スタッフ
シニアレジデント		チーフレジデント			
アカデミックレジデント				大学院	

3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目以降
大学病院・関連病院				研究専念(リサーチイヤー)	留学、クリニカルフェロー、スタッフ	
シニアレジデント		チーフレジデント				
アカデミックレジデント				大学院		

3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目以降
大学病院・関連病院				クリニカルフェロー	留学、クリニカルフェロー、スタッフ
シニアレジデント		チーフレジデント			
アカデミックレジデント				大学院	

注：上記はあくまでも例であり、個々の事情により適宜設定しています。

研修関連病院

筑波大学循環器内科では県内のみならず県外にも**救急患者が多数搬送されるパワーセンター**を研修関連病院を持ち、循環器内科医としてのスキルを磨く事ができます。

(県内) 日立製作所日立総合病院、日立製作所ひたちなか総合病院、水戸協同病院・筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター、水戸医療センター、水戸済生会総合病院、茨城県立中央病院、筑波記念病院、筑波メディカルセンター病院、筑波学園病院、霞ヶ浦医療センター・筑波大学附属病院土浦市地域臨床教育ステーション、茨城西南医療センター病院、総合守谷第一病院、龍ヶ崎済生会病院など

(県外) 聖路加国際病院、東京都立墨東病院、横浜市みなと赤十字病院、横須賀共済病院、東京都立広尾病院、多摩南部地域病院、横浜労災病院

積極的な国内・国外留学の受け入れ

筑波大学循環器内科では高度な技術の習得や研究を目的に国内外から短期・長期留学医師を毎年積極的に受け入れています。様々なバックグラウンドを持つ医師とともに最良の研修を受ける事が出来ます。

臨床留学・研究留学

さらなる飛躍のために積極的に国内外の留学を支援しています。

近年の留学先：(米国) メイヨークリニック、クリーブランドクリニック、UCLA、ミシガン大学。(カナダ) モントリオール心臓研究所。(ドイツ) ライプツィヒ大学。(チェコ) ホモルカ病院。(オランダ) ライデン大学。(ベルギー) ブリュッセル自由大学。(国内) 医薬基盤研究所、心臓血管研究所



興味がある方はいつでもご連絡下さい。見学は随時受け付けています。

筑波大学附属病院 循環器内科
☎305-0031 つくば市天王台1-1-1
Tel/Fax: 029-853-3143
email(医局秘書): tkb-FK@md.tsukuba.ac.jp